

アトピー性皮膚炎の「JAK阻害内服薬」

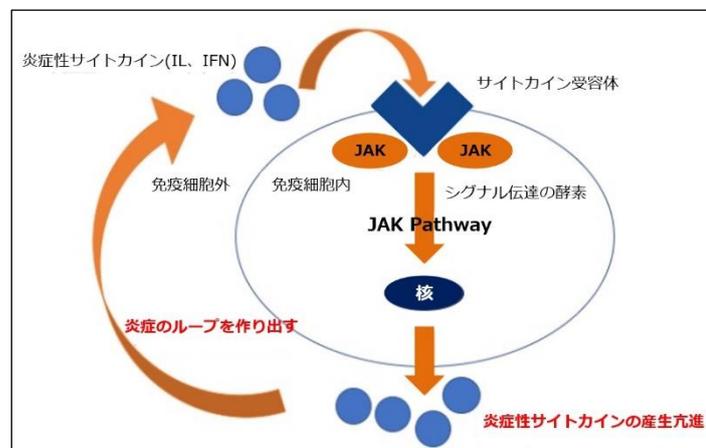
JAK阻害内服薬とは？

JAKとはヤヌスキナーゼ (Janus Kinase) の略語で、炎症反応あるいは免疫反応に関係する蛋白質 (サイトカイン) が免疫細胞の受容体に結合し、その情報を細胞内にシグナル伝達するために必要とされる酵素です。

このJAKにATPが結合するとシグナル伝達がスタートします。

JAK阻害薬はこのATPの結合を阻害することで炎症性サイトカインをシャットダウンし、過剰な免疫反応を抑制します。

JAKは4種類 (JAK1、JAK2、JAK3、TYK2) に分類されます。



治療について

<治療対象となる方>

中等度以上の活動性を有するアトピー性皮膚炎で、

- ステロイド外用薬やプロトピック軟膏などによる治療を6カ月以上行っても十分に効果が得られない12歳以上の方
- IGAスコア3以上、EASIスコア16以上、体表面積に占める病変の割合が10%以上

<投与開始前>

投与前に血液検査、胸部レントゲンを行い、投与して問題ないかを確認します。

主に、感染症の有無 (結核、肝炎ウイルスなど)、白血球やヘモグロビン値、血小板値、肝機能・腎機能障害の有無をチェックします。

※以下に該当する方は投与が受けられません

- 妊娠中または妊娠の可能性のある方、妊娠を希望されている方
- 重篤な感染症や活動性結核のある方
- 血液異常 (好中球 $500/\text{mm}^3$ 未満、リンパ球 $500-1000/\text{mm}^3$ 未満、血小板 $5万/\text{mm}^2$ 未満※、ヘモグロビン $8\text{g}/\text{dL}$ 未満) のある方
※血小板減少はサインバインコのみ禁忌に該当
- 重度の肝機能障害や腎機能障害のある方 (該当するかは薬剤により異なります)

※投与に注意が必要な方

- 悪性腫瘍の既往のある方 (悪性腫瘍の発現率が高くなるとの報告あり)
- 生ワクチン接種予定のある方 (投与開始直前および投与中は接種不可)
- ヘルペスウイルス感染の既往のある方
- 授乳中の方
- 免疫抑制薬を使用している方 (局所製剤以外)

<主な副作用>

- ・重篤な感染症（結核、肺炎、ニューモシチス肺炎、敗血症、日和見感染を含む）
- ・带状疱疹
- ・好中球減少、リンパ球減少、ヘモグロビン減少、血小板減少
- ・肝機能障害、B型肝炎ウイルスの再活性化
- ・消化管穿孔、間質性肺炎、静脈血栓症

※投与中は定期的に血液検査や胸部レントゲン検査を行い、副作用の有無をチェックします
副作用の程度によっては連携病院や大学病院へ紹介する場合がございます

アトピー性皮膚炎に使用できる内服薬

名称 () は一般名	オルミエント (バリシチニブ)	リンヴォック (ウパダシチニブ)	サイバインコ (アブロシチニブ)
阻害分子	JAK1 JAK2	JAK1	JAK1
代謝経路	腎排泄	肝代謝	肝代謝
適応年齢	2歳以上	12歳以上	12歳以上
通常投与量	4mgを1日1回 (状態に応じて2mgに減量)	成人は15mg1日1回 (状態に応じて30mgも可) 体重30kg以上の小児では 15mg日1回	100mg1日1回 (状態に応じて200mgも可)
腎障害時	eGFR \geq 60 4mg1日1回 30 \leq eGFR \leq 60 2mgを1日1回 eGFR $<$ 30 投与しない	副作用が強く現れる恐れがある	副作用が強く現れる恐れがある
肝障害時	副作用が強く現れる恐れがある	重度肝障害時は禁忌	重度肝障害時は禁忌
副作用	血栓症 带状疱疹	血栓症 带状疱疹 ニキビ	带状疱疹 単純ヘルペス
28日分の窓口負担 (3割の場合)	2mg 22,730円 4mg 44,309円	15mg 42,749円 30mg 61,755円	100mg 42,370円 200mg 63,555円

★アトピー性皮膚炎でお困りの方はご相談ください★

JAK阻害薬は第一選択薬ではなく、標準治療の調整のみで病状が安定する場合があります。

JAK阻害薬を使用する際には病状や全身状態に応じて慎重に適応を決定します。

まずはお気軽にご相談ください。

